

一般口演

## 一般口演14

### 地域医療連携データ分析・ベッドコントロール

2018年11月24日(土) 15:20 ~ 17:20 D会場 (4F 413+414)

#### [3-D-2-1] 診療所看護師による医療・介護の連携の実態と必要な看護情報の検討

○板東 由美<sup>1</sup>, 長田 敏子<sup>2</sup>, 池田 律子<sup>3</sup>, 波田 弥生<sup>4</sup>, 花井 理沙<sup>4</sup>, 西本 里美<sup>5</sup> (1.兵庫県立大学応用情報学研究科, 2.特定医療法人誠仁会 たまつ訪問看護ステーション, 3.独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター, 4.神戸市看護大学, 5.石原内科・リハビリテーション科)

厚生労働省が推進している地域包括ケアシステムでは、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うとされている。その関係機関とは、地域の医療機関、在宅療養支援病院、訪問看護事業所、介護サービス事業所とあり、患者がそれらの機関を利用しながら安心して療養生活を送るためには、それぞれの場所で働く看護師が連携して、継続した看護を提供することが必要である。先行研究では、診療所に勤務する医師の調査において、過半数の医師が在宅医療に関する困難と負担を感じており、その解決策として、他医療機関や介護職との連携が重要だと回答しており（新城,2014）、看護師においても同様であると考えられる。しかし、他機関や介護職との連携のための調整を担っている診療所看護師の連携に関する研究は見当らなかった。そこで本研究では、診療所看護師による連携の実態を明らかにするため、アンケートを実施した。その結果、診療所看護師と他の医療・介護機関との連携に必要な看護情報について検討したので報告する。

## 診療所看護師による医療・介護の連携に必要な看護情報の検討

板東由美<sup>\*1</sup>、長田 敏子<sup>\*2</sup>  
波田 弥生<sup>\*3</sup> 花井 理紗<sup>\*3</sup>  
西本 里見<sup>\*4</sup> 池田 律子<sup>\*5</sup>

\*1 兵庫県立大学応用情報研究科、\*2 特定医療法人誠仁会 たまつ訪問看護ステーション、  
\*3 神戸市立看護大学 \*4 石原内科 \*5 独立行政法人国立病院機構 神戸医療センター

### Considation of information necessary for collaboration of medical care by clinic nurses

Yuni Bandou<sup>\*1</sup>, Toshiko Nagata<sup>\*2</sup>, Yayoi Hada<sup>\*3</sup> Risa Hanai<sup>\*3</sup>  
Satomi Nishimoto<sup>\*4</sup>, Rituko Ikeda<sup>\*5</sup>

Regional comprehensive care system promoted by the Ministry of Health, Labor and Welfare is said to provide comprehensive and ongoing home medical care and nursing care in cooperation with related institutions related to medical care and nursing care in the region. The relevant organization is a regional medical institution, a home care support hospital, a visiting nursing office, a long-term care service office, and in order for a patient to deliver a careful life while using these institutions, It is necessary for nurses who work in cooperation to provide continued nursing care. In a previous study, in a survey conducted by a doctor working in a clinic, a majority of physicians felt the difficulties and burdens related to home medical care and answered that cooperation with other medical institutions and nursing care professionals was important as a solution (Shingolu, 2014), I think that it is the same for nurses. However, no research on collaboration between clinic nurses who are coordinating for collaboration with other agencies and nursing care workers was found. Therefore, in this research, we conducted a questionnaire to clarify the actual situation of collaboration by clinic nurses. As a result, we examined the nursing information necessary for collaboration between the clinic nurse and other medical and nursing-care institutions, so report it.

Keywords: clinic nurses ,information, collaboration,

#### 1. はじめに

地域包括ケアシステムは、地域における医療・介護の関係機関が連携して、包括的かつ継続的な在宅医療・介護の提供を行うこととされている。患者が安心して療養生活を送るためには、それぞれの場所で働く看護師が連携して、継続した看護を提供することが必要である。特に高齢者においては、緩やかな病状経過の特徴から、日々の療養生活を支える診療所の医師や看護師の役割は重要視されている。先行研究では、診療所に勤務する過半数の医師が、在宅医療に関する困難と負担を感じており、その解決策として、他医療機関や介護職との連携が重要だと回答している(新城,2014)。しかしながら、診療所看護師が、医療・介護連携に必要な看護情報について検討した研究は、見当らなかった。そこで本研究では、診療所看護師にアンケートを実施し、診療所看護師と他の医療・介護機関との連携に必要な看護情報について検討したので報告する

#### 2. 研究方法

- 1) 研究方法: 量的研究
- 2) 対象者: 神戸市西区・垂水区・須磨区・長田区内の内科・外科・整形外科を標榜する診療所・クリニック・医院の307施設に勤務する看護師(1施設1名 主に管理者の任を担っている者)
- 3) 調査方法: 神戸市西区・垂水区・須磨区・長田区の診療所・クリニック・医院 307 箇所に研究依頼書と調査用紙(付帯資料 2)を返信用封筒と共に送付する。
- 4) 調査内容: 調査用紙「属性」、「看護活動の内容」、「他機関との連携」について調査する。
- 5) データ収集方法: 無記名自記式アンケート調査。

6) 分析方法: 記述統計分析および質的帰納的分析

7) 調査期間: 2018年1月～2月

#### 3. 研究目的

診療所看護師と他の医療・介護機関との連携に必要な看護情報について検討すること

#### 4. 倫理的配慮

アンケート調査は、匿名性を保持し調査票の回答をもって同意を得たと判断することを明記した。

本研究は、兵庫県看護協会倫理審査会の承認を得て実施した。

#### 4. 結果

1) 発送部数 303 部 うち 58 部回収 回収率 19.1%(有効回答 100%)

2) アンケート結果

##### ・属性

- ①年齢; 40 歳代 43.1%、50 歳代 31.0%、60 歳代 20.7%
- ②性別; 100% 女性
- ③看護師経験年数; 1～5 年目 3.4%、11～20 年 32.8%、21 年以上 63.8%
- ④現診療所での経験年数; 6～10 年 13.8%、11～20 年 19.0%、21 年以上 51.7%
- ⑤職位; 管理職 34.5%、スタッフ 65.5%
- ⑥勤務形態; 常勤 69.0%、非常勤(パート含む) 29.3%
- ⑦免許の種類; 看護師 79.3%、准看護師 27.6%、保健師 3.4%
- ⑧診療所の種別; 無床診療所 87.9%、有床診療所 6.9%、在宅療養支援診療所 10.3%

⑨往診または訪問診療;行っている 67.2%、行っていない 31.0%

#### ・主な業務内容

①診療内容の補助 96.6%、検査処置の介助 93.1%、検体採取 89.7%、物品管理 79.3%、診療所の環境整備 72.4%、療養指導 50%

#### ・直接的な情報提供の程度(表1)

	全く行わない	ほとんど行わない	状況に応じて行う	ほとんど行う	すべて行う
同じ診療所医師	7	5	13	16	16
同じ診療所看護師	7	4	12	16	17
他の診療所	19	15	17	4	1
病院地域連携室・外来	16	15	19	4	2
訪問看護ステーション	14	15	23	3	2
ケアマネージャー	14	17	20	4	2
あんしんすこやかセンター	17	17	16	4	2
調剤薬局薬剤師	16	11	24	4	1
医療介護サポートセンター	24	21	9	2	0

表1 直接的な情報提供の程度

#### ・連携が必要だと思う他機関・多職種

訪問看護ステーション 50.0%、ケアマネージャー51.7%、病院連携室や外来 46.6%

#### ・連携が必要だと感じている理由

ことばネットワーク分析結果;高齢化・認知症・独居・情報共有・訪問看護・ケアマネージャー・在宅医療・地域医療に関する話題があった。

#### ・主な連絡手段

主な連絡手段は、どの職種も電話が最も多かった。他機関・多職種の対面による連絡は、調剤薬局 25%で最も多く次いで、ケアマネージャー17.2%、訪問看護ステーション 13% 病院の連携室や外来との対面は 3%、他の診療所は 2%で少なく、顔の見える連携が構築しにくい現状であった。

#### ・患者が療養生活を継続できるように心がけていること

係り受け頻度解析の結果;ケアマネージャーとの連携についての頻度が多かった

#### ・患者が養生活を継続するうえで困難と感じていること

評判分析の結果;時間・情報共有・入院・通院・情報収集であった。

## 5. 考察

アンケート結果から、診療所の看護師は、多くの業務を実践しており、情報収集や療養指導の業務配分が少ないことが分かった。さらに医療・介護連携が必要だと感じながら、高齢化・独居・認知症があり情報連携に困難を感じており、今後情報連携内容として、患者の生活背景に関する情報共有の仕組みを構築する必要がある。特に高齢者は、入退院を繰り返すことが多く、病院の地域連携室や外来との連携が重要である。しかしながら本研究の結果から、診療所看護師と多職種・他機関との連携は、十分行われていないことが分かった。さらに、ケアマネージャーや訪問看護師との連携や情報共有は、電話連絡等で行うことが多く、対面での連携は少ないことが分かった。

診療所看護師は、医療・介護連携する場合に、独居者や認知症患者の情報不足を感じている。今後は、診療所看護

師を含め、地域連携室・外来、訪問看護、ケアマネージャーとの連携を行う為に、介護情報や家族の状況、患者の病状について、医療介護の連携システムの構築が必要であることが示唆された。

## 6. おわりに

診療所看護師は、高齢者の療養支援を支えるうえで重要視されつつある。今後は、本研究を基に患者が地域で療養生活を送るために必要な情報共有内容をさらに具体化し、より良い支援システムを構築することが課題である。

## 7. 謝辞

本研究は兵庫県看護協会より助成をうけてアンケートを行った。関係者の皆様に深く感謝いたします。

## 参考文献

- 1) 内閣府(2007). 高齢者の健康に関する意識調査,  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryoku/zaitaku/dl/h24\\_0711\\_01.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryoku/zaitaku/dl/h24_0711_01.pdf)(検索日 2017年11月10日)
- 2) 日本看護協会(2016). 看護統計資料.  
<https://www.nurse.or.jp/home/statistics/pdf/toukei04.pdf>(検索日 2017年12月24日)
- 3) 新城拓也, 清水政克, 小林重行, 濱野聖二, 岡野亨, 中村宏臣, 本庄昭(2014). 在宅医療に関する医師の困難・負担感の実態調査. Palliative Care Research, 9(1), 107-113.